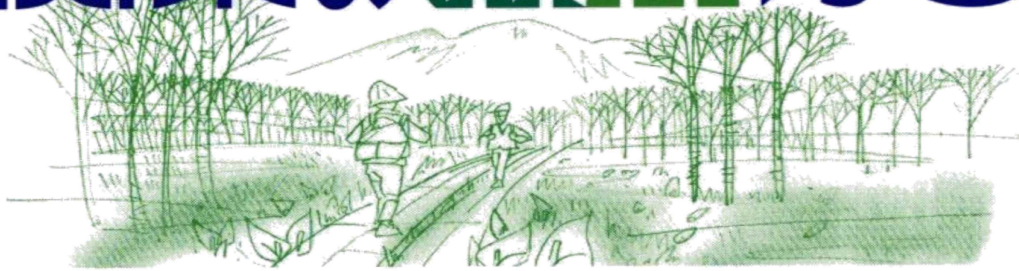


関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://kokuyurin.maff.go.jp/kanto/>



「小蓮華山」と「小蓮華山から白馬岳を望む(ハクサンイチゲ)」

糸魚川市 (撮影：上越森林管理署)

- ◎ 「着任挨拶」 関東森林管理局長 上大田 光成・・・2
- ◎ 森づくり最前線 磐城森林管理署 川前・小川・戸渡森林事務所 首席森林官 櫻井 勝・・・3
- ◎ 「令和2年度のシカ対策の進め方について」 保全課・・・4
- ◎ 「大日沢地区災害復旧事業について」 治山課・・・6
- ◎ 赤谷の森から「三国山ニッコウキスゲを守るためにシカ柵を設置しました」 赤谷森林環境保全ふれあいセンター・・・8

かみおおた みつまさ

上大田 光成 新局長 着任挨拶



7月4日付けで関東森林管理局長に就任しました、上大田光成です。

私は、昭和62年の農林水産省入省時に林野庁で採用され、当時の林政課、森林組合課、管理課で2年間勤務しました。そのとき以来の林野庁勤務ですので、31年ぶりということになります。

その間、国有林野には大きな制度改正があり、なんといっても国有林野特別会計が廃止され、一般会計化されたということで、全く状況が変わっています。一から勉強のし直しということになりますので、皆様にいろいろと教えていただきながら進めていきたいと思っています。関東森林管理局は1都10県を管轄する非常に大きな組織ですので、やりがいも大きいものと感じています。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、ここまで土地改良関連の部署に比較的長く勤務してきました。国有林も、森林を整備するという点では似ているのかもしれませんが、土地改良の場合は農地や農業用水などを整備するところまでが役所の業務であり、その後は農家や法人の方がその農地や施設を利用して作物を作り、販売をされます。一方国有林の場合は、森林・林道の整備を行った後も、林野庁自身が長い期間その森林を管理していき、最後は伐採・販売して再造林したら1サイクルということになります。しかも、販売する以上はできるだけ多くの収益を上げる必要がありますが、民間で林業を営んでいる方々もいらっしゃるのので、その人たちを圧迫してはいけない、という制約があります。このように一手間も二手間も余計にかけないといけないところが農政との違いであり、難しいところだと思います。

幸い、関東森林管理局は民国連携に熱心に取り組んでいるとのことですので、私も、民有林の関係者の皆様や自治体の皆様のお話をよく聞きながら業務を進めていきたいと考えています。

また、森林管理局は、現場に近いところにいる森林管理署と、全国を見ている林野本庁との中間に位置しています。したがって、現場と政策決定をつなぐ大事な仕事を担っていると思いますので、現場の声をよく聞きながら、林野庁に的確にその声を届けていきたいと思っています。

ところで、7月25日、かつて関東森林管理局内で勤務していた元職員が、神奈川県警に収賄容疑で逮捕されるという事態が発生しました。

誠に遺憾なことであり、関東森林管理局としては、事実の解明に向けて警察の捜査に全面的に協力していくとともに、解明された事実関係に基づき厳正に対処し、今後、職員の綱紀粛正の強化と再発防止に向けた指導の徹底を図っていく所存です。そして、このような時だからこそ、関東森林管理局職員一同、信頼回復に向けて業務により一層しっかりと取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様のご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

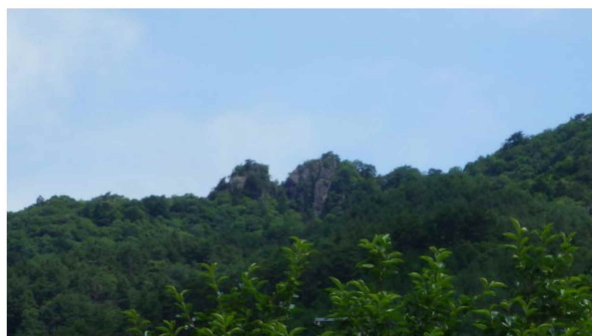
森づくり最前線

磐城森林管理署 川前・小川・戸渡森林事務所
首席森林官 櫻井 勝

川前森林事務所は、福島県の市町村で最も人口が多く、面積が大きい「いわき市」の北部にあり、同市の国有林面積約3万haのうち9千9百haを管轄しています。

当所の職員は、首席森林官及び行政専門員1名の2名です。

管内には、東北100名山の100番目に名を連ねる「ニッ箭山」(標高710m)があります。「箭」は矢竹を意味し鋭い2つの岩峰が天を突くようにそびえていることから名前が付けられたとされ、登山者が多彩な登山ルートや約30mの岩山登り等を楽しんでいます。



【ニッ箭山】

また、管内の南側を流れる夏井川のうち、流れが急峻な約1.6kmに及ぶ区間が「夏井川渓谷県立自然公園」に指定され、岩壁の間を流れ落ちる様子が迫力の「籠場の滝」等幾つもの小滝や谷の両脇に自生する広葉樹林帯等、素晴らしい渓谷美が見られます。



【夏井川渓谷(中央が籠場の滝)】

ところが、令和元年10月に発生した台風19号及び集中豪雨により夏井川が氾濫しました。報道等でもご覧になった方もおられると思いますが、下流の堤防が決壊し川沿いの平窪地区の数多くの世帯が浸水する等甚大な被害が発生しました。今でも家屋の修繕及び堤防、護岸の復旧等行われています。管内の国有林でも山腹崩壊及び林

道の法面・路肩崩壊洗掘等が発生し、土砂が周辺の水田及び宅地へ流出する被害が数か所で発生し、現在、山腹工の実設計及び林道の修繕等が行われているところです。



【台風19号による被害状況】

管内東側の太平洋岸、南北15kmに位置する新舞子海岸の海岸防災林は潮害防備保安林及び保健保安林で、磐城海岸県立自然公園に指定され、国有林部分は、いわき自然休養林に指定されています。この海岸防災林は、東日本大震災の津波から後背地の住宅・農地を守る効果を発揮しました。当所では、引き続き海岸沿いに生活する地域住民の生活環境の保全に重要な役割を果たしていくため、森林の再生、保安林機能の回復を目的とした施業を実施しています。具体的には、松くい虫被害予防の観点から薬剤の散布を行うとともに、被害木については伐倒駆除を行い、松くい虫抵抗性を有するクロマツへの計画的な転換を行っているところです。



【抵抗性クロマツ植栽箇所】

このように、当所は国有林が隣接する農地及び住民生活への影響が大きい森林管理署の森林事務所であり、森林整備及び治山事業の重要性を再認識しているところです。これからも地域住民の方の声を反映すべく森林官として、業務を行って参りたいと思います。

「令和2年度のシカ対策の進め方」について

保全課

ニホンジカ（以下「シカ」という。）については、個体数の増加や生息地域の拡大が問題となっており、森林被害は依然として深刻な状況にあります。関東森林管理局管内においても、シカの高密度地域ではシカ捕獲事業や、関係自治体等と連携したシカ対策を行いつつも目に見える減少を確認するまでには至っていません。一方、これまでシカがいないとされていた地域においても平成30年に目撃情報があり、その後も各署等で設置したセンサーカメラに断続的にシカが撮影される状況となっています。

このことから、関東森林管理局では「シカ対策プロジェクトチーム」において、令和2年度のシカ対策の進め方を定め、これまで以上に局・各署等が一体となり地域関係者とも連携しながら、計画的・効率的なシカ対策を進めていくこととしています。

シカ対策の進め方については、森林法に基づく国有林の地域別の森林計画において、鳥獣害防止森林区域と当該区域における鳥獣害の防止に関する事項を定めることとなっています。そこで、各地域別の森林計画を踏まえ、シカの生息状況に応じて次のとおりに区分し定めることとしました。

1 シカが高密度に生息する地域の対策

(1) 密度が極めて高い地域

鬼怒川、渡良瀬川、那珂川、西毛、利根上流、利根下流、
富士川上流、富士川中流、富士、伊豆、天竜

(2) 密度が高い地域

阿武隈川、会津、吾妻、埼玉、千葉南部、多摩、神奈川、静岡

2 シカが低密度に生息する地域の対策

(1) 密度が低く被害がなくても警戒すべき地域

奥久慈、八溝多賀

(2) 密度が低く被害が出ていない地域

磐城、水戸那珂、霞ヶ浦、中越、上越、下越、千葉北部、山梨東部

3 シカの生息が確認されていない地域の対策

伊豆諸島、佐渡

4 全般的な対策

それぞれの地域における具体的な対策としては、「1シカが高密度に生息する地域」では、捕獲対策と防護対策を重点的に実施することとしています。

捕獲対策については、安全管理の徹底と、地域との連携により効率的な対策とすることを念頭に、①委託捕獲（ICTを活用）、②職員実行による捕獲（ICTを活用）、③猟友会との捕獲協力に係る協定を実施していくこととしています。

防護対策については、①防護柵等の低コスト化（下刈経費も含めた検討、既設の柵についてはドローンによる点検の実施）、②安価な資材を利用した単木保護の検討（タマネギネット等）、③ブロックディフェンスの検討（くくり罠捕獲との併用による効果も検証）、④森林施業による防除効果の検証（人工林帯状伐採跡地の地表かき起こしを行い、天然更新した稚幼樹等の食害調査等）を実施し、捕獲と防護により適切な対策を計画的に講じていくこととしています。



職員実行による捕獲



タマネギネットを活用した防除

「2 シカが低密度に生息する地域」においては、センサーカメラによる生息調査を行い、生息状況の早期把握と情報共有を行うこととします。特に、近年シカが増えてきている福島県・茨城県・栃木県にまたがる八溝山地域の対策については、令和元年6月に設置された「八溝山周辺国有林ニホンジカ対策協議会」を中心に、引き続き地域関係者と連携しながら、低密度下におけるシカ対策を検討していくこととしています。

また、赤谷地域では、赤谷森林ふれあいセンターにおいて、引き続き赤谷プロジェクト（地域連携による実行体制）により、低密度下におけるシカ被害対策の技術開発を進めることとしています。



「八溝山周辺国有林ニホンジカ対策協議会」の設立



赤谷地域の誘引資材による誘引試験

「3 シカの生息が確認されていない地域」においては、現時点では対策はありませんが、今後シカに関する情報に注意することとしています。

「4 全般的な対策」としては、①地域との連携（各種会議等による活動や、森林総研との連携等）、②職員研修の実施（有害鳥獣捕獲わな研修や、中央研修等への積極的な参加）、③シカ生息状況及び被害状況の把握（ニホンジカ影響簡易チェックシート及びシカ情報マップの有効活用）、④シカ対策を考慮した治山事業を進めて行くこととしています。

各署等においては、「令和2年度のシカ対策の進め方」を踏まえ、シカ対策を実行していくこととしています。また、「シカ対策プロジェクトチーム」では、年度途中に取り組みの進捗状況を把握するとともに、シカ対策を進めていく上で見えてくる情報や課題を踏まえて、次年度に向けた進歩的なシカ対策を検討することとしています。

こうした取組の中、これまで森林被害が確認されていなかった八溝山地域（棚倉署管内の造林地）において、6月にシカの食害と思われる食痕が発見されました。このため、森林総研と調整し、7月14日に八溝山地域の関係者と、福島県・茨城県・栃木県を交え、食害の状況の確認と今後の対策の方向の検討を行うため現地調査を実施しました。

その結果として、やはりシカの食痕が多く、福島県・茨城県・栃木県が昨年7月に設立した「福島茨城栃木捕獲連携協議会」で今年度に予定している捕獲（忍び猟）を、棚倉署の国有林内でも実施することが出来るのか調整するとともに、保護対策として、まずは忌避剤散布を検討していくこととなりました。

今後、各地域においても、地域関係者との連携を密にし、情報共有を図りながら、地域の状況を的確に把握し状況変化に応じた対策を行っていくこととします。



「棚倉食害地現地調査」の実施

大日沢地区災害復旧事業について

(静岡県駿東郡小山町：静岡森林管理署)

大日沢地区は、富士山麓の静岡県駿東郡小山町字木ノ根坂国有林内に位置し、JR御殿場線足柄駅と富士山を結ぶ県道150号線（ふじあざみライン）が通っており、近くには陸上自衛隊の東富士演習場があります。

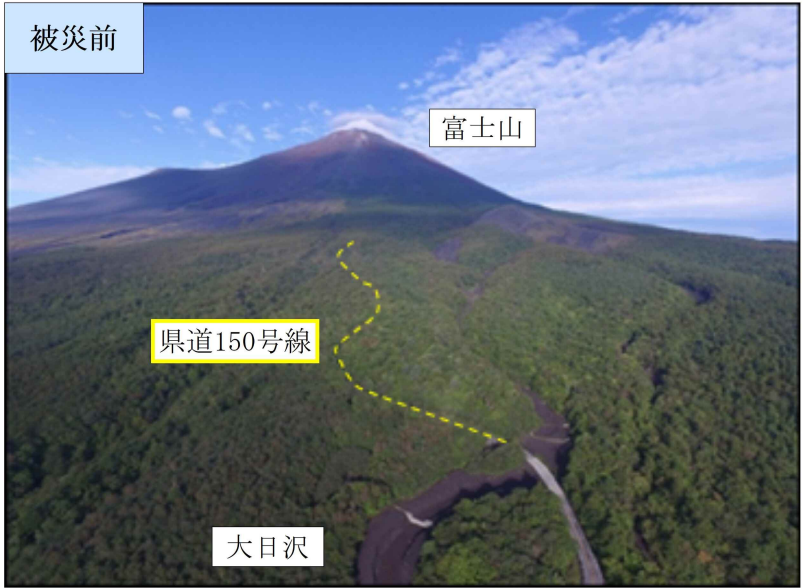
この大日沢地区において、平成30年3月5日に低気圧が通過し、大雨とともに暖気が流れ込み、気温が急上昇したことにより、同日夕方、富士山東斜面標高2,600m付近からスラッシュ雪崩（※）が発生しました。

このスラッシュ雪崩により、大量の土砂（スコリア：火山噴出物の一種）が大日沢を流下し、県道150号線、さらには下流部に位置する海苔川調整池へ土砂が流出しました。大日沢の国有林内には8基の治山施設が設置されており、土砂を堆積させる等一定の効果を発揮しましたが、県道150号線には大量の土砂が堆積し、一時通行止めの措置が取られる等の被害が発生しました。

静岡森林管理署では、大日沢の溪床に大量に残っている不安定土砂約55万m³の流出による、再度の被害を防止するため、大日沢地区を災害申請し、平成30年度から災害復旧事業を実施しております。

今回は、本地区の現在までの進捗状況等を紹介します。

（※スラッシュ雪崩とは、大量の水を含んだ雪崩が、斜面から溪流へと流下する際に、溪岸や河床の堆積物を侵食し土石流化するもの）



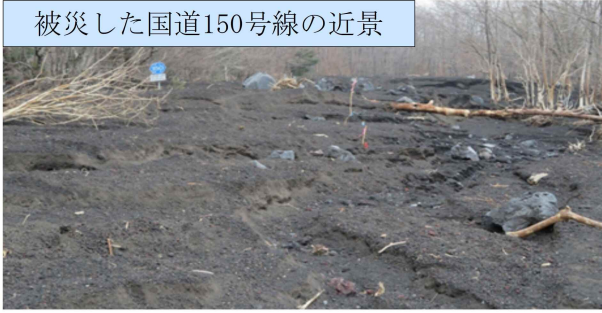
上流部の荒廃状況



被災した既設床固工（手前からNo.3, 4, 5）



被災した国道150号線の近景



浚渫後の国道150号線（平成30年3月）



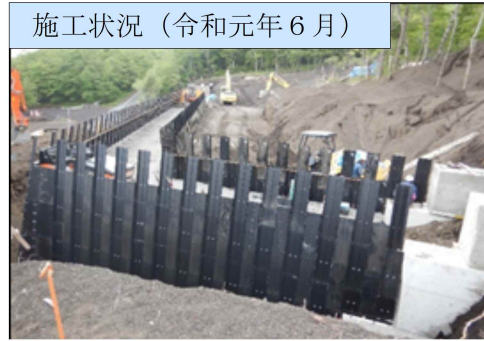
令和元年度は、第1号・第8号床固工等（ソイルセメント型）を施工し、完成に至りました。これにより、直下の県道150号線は更に安全に通行できるようになりました。

また、昨年（令和元年）の台風第15号・19号により大雨が降りましたが、上流からの土砂の流下は、発生しませんでした。

なお、床固工に採用したソイルセメント工法は、外部保護材を上下流面に配置し、内部材は土砂とセメントと碎石を混合固化させて使用することで、重力式コンクリート床固工よりも経済性が高く、現地土砂の活用もできるとともに、施工に合わせ溪床に堆積した土砂の整理も実施することができました。

令和2年度以降も引き続き、上流部の溪床に堆積している不安定土砂を利用したソイルセメント工法による床固工を施工し、民生の安定のため災害防止に努めて参ります。

施工状況（令和元年6月）



令和元年度完成（第1号床固工外）



今月の表紙

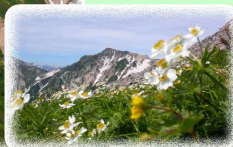
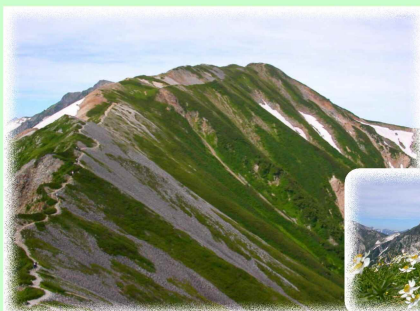
これんげさん 小蓮華山 系魚川市

「小蓮華山」「小蓮華山から白馬岳を望む(ハクサンイチゲ)」

小蓮華山は、新潟県と長野県の県境にまたがる山で白馬岳を主峰とした蓮華三群の一座で、白馬岳東延稜に位置する新潟県の最高峰です。

平成19年6月ごろ、山頂部が地すべり崩壊して三角点が崩れたため、翌年10月、北側に3メートル下げて移設し、標高2,766メートルとなっています。

山頂には、享和元年（1801年）に建立された大日如来像が安置され、かつては信仰の対象となっており「大日岳」とも呼ばれてます。



カキラン(柿蘭)

約30~70cm. 明るい湿地に生える。初夏に柿色の花を、うむきがちにつける。



～三国山ニッコウキスゲを守るためにシカ柵を設置しました～

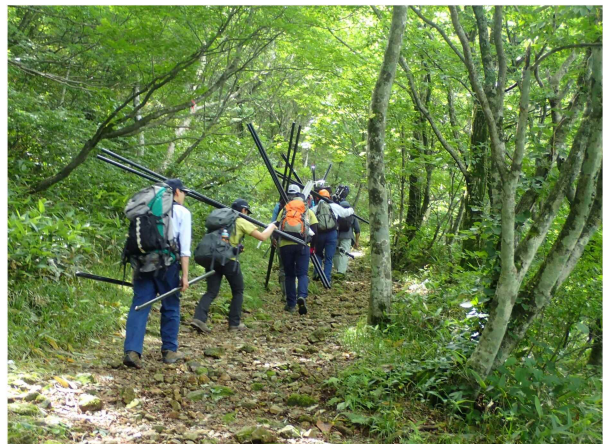
赤谷プロジェクトでは、三国山登山道脇に咲くニッコウキスゲをシカの食害から守るためにシカ柵を設置しました。

ニッコウキスゲは、朝方に開花し、夕方にしぼむ一日花で、1株に3～10個の花をつけます。三国山では、例年7月中旬頃に見頃となり、毎年多くの登山者の目を楽しませてきました。しかし、近年は笹の侵入とシカの摂食によりその数を大きく減らしています。事実、赤谷プロジェクトにおいて2013年と2019年にニッコウキスゲ群落の花の数を調査したところ、2013年時点で2500本程度だった箇所は2019年で300本程、1000本程度あった別の箇所でも50本程と激減していることが分かりました。専門家からは「早急に対策をしないと絶滅してしまう可能性がある」との意見も出ています。

そこで、昨年度他署で台風被害により事業が中止になり余ったシカ柵の資材を提供して貰い、今年度設置することにしました。



作業前のミーティング



資材の運搬



三国山の会の皆さん



アンカーの打込作業

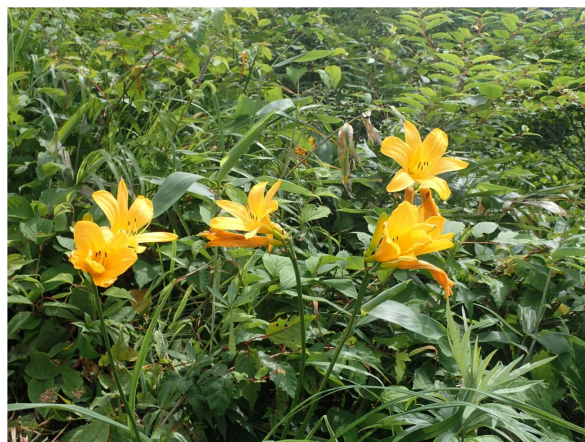
実施月日は2020年7月13日(月)、赤谷プロジェクト地域協議会、公益財団法人日本自然保護協会、環境省谷川管理官事務所、三国山の会、関東森林管理局から参加を頂き総勢14名で行いました。連日の雨でしたがその日に限っては天気にも恵まれて、絶好の作業日和となりました。現地に8時30分に集合し自己紹介を兼ねてミーティングを行い、その後新潟県側の登山口に移動し作業を始めました。最大の難関はシカ柵の資材を目的地まで運搬することです。年齢50歳以上の方が大半を占めていましたが、高齢の方ほど普段から山歩きには慣れているのか率先して重い荷物を持って頂き、無事登り切ることが出来ました。柵の設置については15m四方と小規模なものですが、皆不慣れだったこともあり最初は苦労しました。しかし、作業を進めて行くうちにコツを覚え、14時には無事完成することが出来ました。今年は柵を張るのが少し遅く、シカに食害された後で花は余り残っていませんでしたが、来年の今頃の柵の中は多くのニッコウキスゲの花が咲くことでしょう。

今後は毎年冬季の積雪による柵の損傷を避けるため、柵の上げ下げとメンテナンスが必要になりますが、更なる協力体制を築いて、ニッコウキスゲを守って行きたいと関係者は心に誓いました。この様子は、赤谷森林ふれあい推進センターホームページに詳しく載っていますので、是非ご覧ください。

※http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.htm



ネットの設置作業



美しい三国山のニッコウキスゲ



シカ柵の完成



参加メンバーで記念写真

きのこ特集

日本で観察ができる冬虫夏草について

きのこの種類は大きく二種類に分類されます。担子菌類と子囊菌類です。

担子菌類は担子器と言われる物の外側に胞子を作り、子囊菌類は子嚢と言われる袋の中に胞子を作ります。冬虫夏草とは、虫や植物に寄生する子囊菌類、バツカク菌目に属するきのこの総称です。

サナギタケ、ハナサナギタケ（ウスキサナギタケの不完全世代）、カメムシタケ（ミミカキタケ）は普通に観察されます。

なお、菌が付いた虫はキノコが栄養を取り続けますが、腐敗することはありません。

サナギタケ（食用）

（バツカク菌科 トウチュウカソウ属）

子実体（ストローマ）は高さ3cm～8cmで鮮橙色で棍棒状をしていて、上部は胞子を飛ばす子嚢殻がある。下部には菌があり、菌に寄生する。



この菌はシャチホコガやブナノアオシャチホコに発生した物が多く見られますが、菌なら種類に関係なく寄生します。

カメムシタケ（ミミカキタケ）

（バツカク菌科

トウチュウカソウ属）

子実体（ストローマ）は細長く5cm～8cmで表面は黒色で最上部は膨らみ橙色でこの部分に胞子を作る子嚢がある。



カメムシ類の成虫に寄生する。

クモタケ

（バツカク菌科

トウチュウカソウ属）

子実体は細長く3cm～7cmで表面は白色で最上部が灰色でこの部分に胞子を作る子嚢がある。



クモ目の成虫（主にトタデグモ）に寄生する。



ウスキサナギタケ

（バツカク菌科 トウチュウカソウ属）

子実体（ストローマ）は円柱状で高さ2cm～5cmで先端が膨らみ薄黄色で先端に胞子を作る子嚢殻がある。



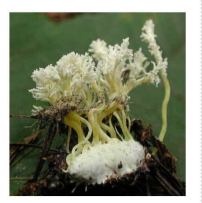
各種の蛾の菌に寄生します。

ハナサナギタケ

（バツカク菌科

トウチュウカソウ属）

子実体（ストローマ）は白色で先端が枝別れして、高さ2cm～5cmで子嚢殻を持たない、各種の蛾の菌に寄生する。ウスキサナギタケの不完全世代です。



※不完全世代とは…

不完全世代は完全世代と違い子嚢殻が不完全で胞子がなく、分生子で増えます。胞子がない物を不完全世代と言います。

ツクツクボウシタケ

（バツカク菌科 トウチュウカソウ属）

子実体（ストローマ）は薄黄色の地に先端が膨らみ白色で高さ5cm～8cmでツクツクボウシの幼虫に寄生し子嚢殻が不完全で胞子はない。



ツクツクボウシセミタケの不完全世代です。

イモムシタケ

（バツカク菌科

トウチュウカソウ属）

子実体（ストローマ）は棍棒状で高さ2cm～8cmで鮮橙色で先端が膨らみここに子嚢殻がある。鱗翅目の幼虫に寄生します。



セミノハリセンボン

（バツカク菌科 トウチュウカソウ属）

子実体（ストローマ）は非常に小さく虫ピン状で色は薄紫色、子実体の先端に分生子が付く。



各種の蟬の成虫に寄生する。

コニシセミタケの不完全世代です。

タンポタケ

（オピオコディケプス科 ハナヤスリタケ属）

子実体（ストローマ）は高さ6cm～8cm オリーブ色で頭部は黒色で球形をしている。ここに子嚢殻を作る。



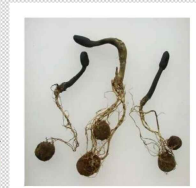
地下制菌類ツチダンゴの仲間に寄生する。虫に寄生しないが広義の冬虫夏草の一種です。

ハナヤスリタケ

（オピオコディケプス科

ハナヤスリタケ属）

子実体（ストローマ）は2cm～3cmでオリーブ色で頭部は黒色から黒褐色で地下部は細長い白色の細根状で不規則に分岐してツチダンゴの仲間に寄生する。



タンポタケと同様に虫には寄生しません。

発行所	関東森林管理局
編集	総務課
TEL	(027)210-1158
FAX	(027)230-1393